

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 2025年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(夏)を開催!

P2~P4 青森県臨床検査技師会 令和7年大規模地震時医療活動訓練に参加

P5 大規模災害時の支援人材育成講習会 その1、その2 オンデマンド配信中! /

「血糖変動を見る タスク・シフト/シェアで拡げる糖尿病療養支援」 オンデマンド配信中!

2025年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(夏)を開催!

この制度は臨床検査部門だけの管理者に留まらず、将来それぞれの職場で医療技術部門のリーダーや経営管理も担える人材を育成するために創設された認定制度です。事前にeラーニングでの講義を受け、一定レベルの内容を習得、夏と秋に行われる集合研修を受けることで受験資格が得られます。

本年度も9月6日(土)~7日(日)の2日間、夏の集合研修が開催されました。夏の集合研修は「医療版論理的思考&コミュニケーションをマスターする」をテーマに、18名が受講し、自分の意思を正確に伝え、相手を納得させるための相手の立場に立った考え方・話し方、交渉力や折衝力といった管理者に必要なスキルを学びました。



研修の様子

参加者の感想

柴田 真由美

(新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院)

本研修会は初日13:00~19:30、2日目8:30~16:40と長時間にわたるプログラムでしたが、集中して実践的な内容を学ぶことができました。

冒頭の「後出し負けじゃんけん」では、頭では理解していても“勝ってしまう”という逆説的な体験を通じて、「わかる」と「できる」の違いを体感し、笑い声とともに和やかにスタートしました。グループワークは40回に及び、随所で振り返りの時間が設けられ、思考の整理と理解の定着に大いに役立ちました。「 이슈を特定する」「頭の中の考えを言語化・共有する」など、情報共有や業務改善に活かせるスキルを学ぶことができました。コミュニケーションの場面において、相手が最終的に行動を起こすよう促す伝え方の重要性を再認識し、対話の質を高め、より効果的なチーム運営につなげていきたいと感じています。いくつになっても学びは続きますが、中堅層はもちろん、若手にも早期の受講を強く推奨したい内容でした。

柳澤 美千代(軽井沢町国民健康保険 軽井沢病院)

「医療版論理的思考&コミュニケーションをマスターする」をテーマに、密度の濃い研修会でした。この研修で最も心に残ったのは「 이슈を特定する」ということです。2日間を通して膨大なグループワークを行いました、その度に 이슈のすり替えや、自分の枠組みの中だけで考えていることに気づかされました。

一方で、私たち臨床検査技師の仕事は論理的思考の繰り返しであることを改めて認識しました。これは時間をかけて習得してきたものですが、コミュニケーションにおいても意識的に実践することで習慣化できると信じ、「 이슈は疑問形である」ことを忘れずに取り組んでいきたいと思います。

少人数のグループワークは、活発な意見交換の場となりました。講師の谷内先生と受講者の皆さんの熱量に圧倒され続けましたが、学び多き2日間でした。管理者だけでなく、多くの方々に体験していただきたい研修でした。

青森県臨床検査技師会 令和7年大規模地震時医療活動訓練に参加

令和7年度大規模地震時医療活動訓練は、現実には即した大規模地震発生を想定し、被災地医療体制の検証と強化を目的に実施されました。本年は被災中心地を青森県と想定し、青森県臨床検査技師会を中心に、日臨技ならびに臨床検査関連団体が連携して参加いたしました。

今回の訓練では、ブラインド型の進行の中で、安否確認・情報収集の新たな試みや、調整本部でのリエゾン活動など、実災害時に直結する具体的な取り組みが行われました。これらの活動は、臨床検査技師が災害医療において果たし得る役割を改めて確認するとともに、今後の全国的な活動に資する大きな成果となったと考えております。

青森県臨床検査技師会をはじめ、本訓練にご協力いただいた関係団体の皆様に心より敬意と感謝を申し上げます。

災害対策WG担当執行理事 直田 健太郎

大規模地震時医療活動訓練参災害参加報告

一般社団法人青森県臨床検査技師 会長
日臨技 理事・災害対策WG委員長 奥沢 悦子

令和7年度大規模地震時医療活動訓練（以下、政府訓練）では北海道と東北地方の太平洋沿岸で大地震を想定した医療活動訓練が行われた。被災想定：2025年9月5日（金）11時頃、青森県東方沖を震源とするマグニチュード9.1の巨大地震が発生。最大震度6強、青森県内の広範囲で震度6弱～4を観測（図1）。8分後、大津波警報が発令。青森県内の死傷者の想定は約58,000人とされ、災害派遣医療チーム（DMAT）をはじめとする支援団体が支援活動する想定である。

青森県臨床検査技師会（以下、青臨技）は、この被災想定政府訓練に参加した。なお、本訓練実施までに県庁医療薬務課と青臨技、青森県医師会などをはじめとする県内関連団体が参加する事前の打ち合わせを経て、本政府訓練に臨んだ。本政府訓練は一部のコントローラーのみが被災想定付与を把握し、多くの訓練工程はブラインド訓練として進められた。

【訓練1日目：9月5日】

青臨技からは第1報として深澤恵治専務理事へ被災状況を報告した。なお青臨技では初の試みとなる県内の施設責任者へのGoogleフォームによる会員安否確認・被災状況など設問を配信し、情報収集・集約と関係機関との情報共有を実施した（表1）。発災同日15時に青森県庁北棟2階に保健医療福祉医療調整本部（以下、調整本部）が設置され（図2）、3か所の活動拠点本部と下部組織として14か所の指揮所が立上げられた。



図2 保健医療福祉調整本部内の様子

【訓練2日目：9月6日】

青臨技は朝8時に災害対策本部設置立上げを宣言した。この時点で県内の施設責任者へ配信したGoogleフォームの回答は、県内94施設中、返答入力32施設であった。日臨技訓練シナリオでは、日臨技災害対策本部会議で調整本部へのリエゾン派遣が決定された。青臨技からは先発隊として青森県立中央病院 病理部 小倉達也氏を指名し、その後、筆者（奥沢悦子）も登庁した（図3、4）。県庁調整本部の関連団体の受付では、日臨技リエゾンは物流支援班に配属された。小倉氏は物資支援班内でクロノロジーを担当しながら

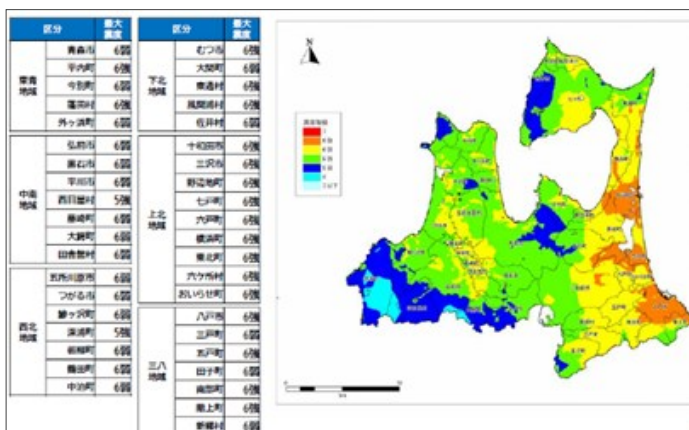


図1 訓練での青森県内の震度分布



図3 (左) 調整本部から手渡されたビブス



図4 (右) 物資支援班での本部活動



図7 関連団体参加の災害対策本部会議（県庁内）

青臨技内の情報収集も務めた（図5、6）。調整本部内と青臨技の臨床検査に関する情報収集を継続し、物的支援・人的支援などについて情報集約した後、渉外・連絡調整班（日臨技事務局 板橋氏）へ依頼・連絡した。渉外・連絡調整班は日本臨床振興協議会 大規模災害対策委員会、日本臨床検査学教育協議会、日本臨床検査薬卸連合会との連携・通信訓練が行われた。なお、今回の調整本部内の政府訓練では、日臨技訓練シナリオ以外での支援要請もあり、政府訓練との同期が必要な依頼内容の場面もあった。



図5、図6 クロノロジーを担当する小倉氏

調整本部内ではリアルタイムに避難所での消化管症状、呼吸器症状の発生状況が得られ、迅速感染症キットの依頼がされ、リエゾン側より迅速感染症キットの準備ができることを伝えることができた。訓練終盤の15時30分には青森県医師会、小児・周産期リエゾン等の関連団体が参加する災害対策本部会議への参加依頼があり、現状報告と今後の対応について報告した（図7）。

【まとめ】

本政府訓練では、日臨技をはじめ、北日本支部、各関係団体の協力により円滑な連絡・連携活動ができた。課題としては会員の安否確認・情報収集の方法・手段を今後、検討していきたいと考える。

【最後に】

実災害を考えてほしい。発災直後と同時に、地域一帯と病院施設内では停電発生・上下水道使用不可が起きるであろう。平日日中では病院施設の外来患者は戸惑い混乱する一方で、大津波警報が発令され、高台・高層階への避難を余儀なくされる。この避難誘導までのわずかな時間で、通信手段（スマートフォン、ノートパソコンなど）・バッテリー・充電コード・延長コードを死守しなければならない。これらを持ち運べるリュックサックやコンタクトリストなどの準備はできているだろうか。季節が違えば、すぐに日没となり、気温も下がる。本部立上げを担う者は通信手段の確保が重要である。

【謝辞】

本訓練でご協力賜りました関係団体の皆様に心より深謝申し上げます。

＜参加関係団体＞

日本臨床衛生検査技師会 代表理事
執行理事
事務局

日本臨床検査振興協議会
日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査薬卸連合会
北日本支部所属都道府県技師会 会長
北海道臨床検査技師会
岩手県臨床検査技師会
秋田県臨床検査技師会
宮城県臨床検査技師会
福島県臨床検査技師会
山形県臨床検査技師会
新潟県臨床検査技師会
青森県臨床検査技師会

表1 クロノロジー

日 時	発	受	内 容
9月5日 11:00頃	アラート		青森県東方沖を震源とするマグニチュード9.1大地震発生。青森県内：最大震度6強
11:08	アラート		大津波警報発令（太平洋沿岸・陸奥湾→浸水の情報あり→当院：高層階へ避難
11:15	青臨技		青臨技より安否確認・被災状況Googleフォームにて情報収集開始
11:40	深澤専務	青臨技 奥沢	深澤専務より安否確認・被災状況に関する問い合わせあり
11:42	青臨技 奥沢	深澤専務 早坂支部長	11：30時点での県内の震度分布、被災状況を伝えた。安否の把握に時間を要することを伝えた
12:45	県庁	八戸市民病院 災対本部	東通村原子力発電所内で汚染傷病者発生 原子力災害医療対応チーム立上げ予定の知らせあり
14：10	早坂支部長	青臨技奥沢	ZOOMによる日臨技打ち合わせ会開催知らせあり。本日17時開始
15：00	県庁	八戸市民病院 災対本部 青臨技 奥沢	青森県庁内（北棟2階）に保健医療福祉調整本部設置の連絡あり
15：00	県庁	青臨技 奥沢	EMIS（訓練想定上）：病院施設の5施設、浸水15施設、停電77施設
17：00	日臨技	青臨技 奥沢	ZOOMによる 日臨技会館に災害対策本部設置 第1回日臨技災害対策本部会議開催
19：30	早坂支部長	青臨技 奥沢	情報連携は早坂支部長が担当 関係団体との窓口は事務局板橋氏が担当
9月6日 8:00	青臨技 奥沢	深澤専務 早坂支部長 事務局 板橋	青臨技：災害対策本部設置決定 本部立上げを連絡した
9:21	早坂支部長	青臨技 奥沢	10：30より第2回災害対策本部会議開催のお知らせ
9：30	事務局 板橋	青臨技 奥沢	日本臨床検査振興協議会（振興協議会）が物資支援コアチームを設置。メールにフローと連絡先は添付あり
9：31	事務局 板橋	青臨技 奥沢	日本臨床検査薬卸連合会（臨薬卸連）より、協定に基づき、物資支援コアチームと連携し純水を含む物資搬送の連携協力体制が整った報告を受理
9：32	事務局 板橋	青臨技 奥沢	日本臨床検査学教育協議会（日臨教）より、協定に基づき、支援員の募集協力依頼があった際、迅速に対応できるよう会員施設に連絡共有した旨の報告を受理
9：42	臨薬卸連 増沢	青臨技 奥沢	被災地卸問屋と連携し、物資支援コアチームと連携し純水を含む物資搬送の連携協力体制が整ったとのこと
10:30			第2回災害対策本部会議開催 ・青森県庁内に保健医療福祉調整本部設置 ・青臨技災害対策本部立上げ ・青森県内会員安否・被災状況報告 ・振興協議会が物資支援コアチーム設置 ・臨薬卸連から物資搬送の連携協力体制整ったとの報告 ・日臨教より支援員募集依頼への迅速対応に関して会員共有した ・青森県庁へ1名リエゾン派遣決定 リエゾン：青森県立中央病院 小倉達也
11：00	早坂支部長	青臨技 奥沢	第2回災害対策本部会議開催 ・リエゾン派遣者が決定した ・今後、リエゾンと渉外、連絡調整班板橋氏と連携していく（人的・物的支援）
13:00	リエゾン 青森県立 中央病院 小倉		青森県庁福祉医療調整本部到着 本部受付→支援可能な活動内容伝えた→「物資支援班」に配属決定 →本部より物資支援班ビブスが渡された
13:00	リエゾン 奥沢		リエゾンとして調整本部参戦 ＊調整本部内の政府訓練想定と同期必要となった ・避難所より嘔吐・下痢症状の避難者あり。ノロウイルス検査キットの依頼はまだないがリエゾンで、今後、感染拡大の可能性ありと判断。ほか、高校体育館避難所で、咳・発熱症状約20名の情報あり ・緊急輸血の依頼あり→日本赤十字社血液センターと調整 ・避難所立上げ情報あり、DVT検査への準備 ・リエゾン小倉は物資支援班のクロノロジーも担当
13:00	リエゾン 奥沢	事務局 板橋	・上北保健所より感染症キットの依頼があり ・検査機器などの依頼あり、別紙にて依頼 ・人的支援依頼、DVT検査依頼
14:30	調整本部	リエゾン 奥沢	災害本部関連団体会議が15:30より別室で開催するため、出席・報告発表の依頼あり →リエゾン奥沢が参加対応することとした
15：30	リエゾン 奥沢	関連団体会議	リエゾン奥沢より、被災状況・ニーズを報告し、日臨技災害対策本部との体制が整ったこと、各関連団体と連携して感染症迅速キット手配、検査機器手配の調整、人的支援依頼済であることを述べた
17：00			日臨技訓練想定：第3回災害対策本部会議開催
17：00			守川本部長より総括があり、全訓練終了が宣言された

大規模災害時の支援人材育成講習会 その1、その2オンデマンド配信中！

近年、震災や新興感染症の蔓延など、大規模な災害が頻発しています。こうした有事の際に、臨床検査技師が専門性を活かして支援活動に参加できる体制が必要となっています。本研修は、臨床検査技師の災害支援人材として活動できる知識習得を到達目標とし、大規模な災害発生時におけるマネジメントや情報収集、被災地外からの支援の在り方とともに、災害対策本部の運営に関する知識を学ぶことを目的に開催しています。

当会は職能団体としての社会的責任を果たすべく、大規模災害時に臨床検査技師が人的支援を行える体制の構築を目指しています。会員施設における臨床検査機能の維持、被災地の要請に応じて、J-MAT（日本医師会）や日本赤十字社などと連携し、震災や新興感染症の蔓延時に対策活動を実施しています。全国的に多くの臨床検査技師が支援活動に参加できるよう、人材育成が不可欠となります。

将来の大規模災害発生時には、本研修修了者に協力を呼びかける予定です。実際の対応可否は個々の状況によりますが、有事の際にはぜひご協力をご検討ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大規模災害時の支援人材育成講習会 その1の目的

- 災害対策本部で支援活動ができる臨床検査技師の育成
- 災害対応の原則・概念、情報管理、資源管理などの知識習得を到達目標とする

大規模災害時の支援人材育成講習会 その2の目的

- 災害支援人材として必要な知識の習得
- 大規模災害時のマネジメント、情報収集、被災地外からの支援のあり方
- 災害対策本部の運営に関する知識の習得

会 期：開催中（無期限）
 申込期間：受付中（無期限）
 受講料：無料
 点数付与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点
 申込・受講方法：会員専用ページより①事前参加申込み
 → ②事前参加申込済一覧から受講



「血糖変動を見る タスク・シフト/バシエで拡げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信中！

テーマ：タスク・シフトによる糖尿病支援の進化 ～臨床検査技師の役割と新たな挑戦～

臨床検査技師が糖尿病管理における検査結果の活用法や患者支援の実践的な手法を習得するために、タスク・シフトの概念に基づいて医師や看護師など多職種と連携する方法や、CGMを含めた実践的な支援内容を学ぶ研修会をオンデマンド形式で開催中です。会員専用ページから事前参加申込をして、是非、ご参加ください。

会 期：令和7年7月1日（火）から10月31日（金）
 申込期間：令和7年6月1日（日）から10月30日（木）
 受講料：1,000円（クレジット決済のみ）
 点数付与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

（編集後記）秋は、一年の中で最も過ごしやすい季節の一つであり、自然の美しさやおいしい食べ物が楽しめる時期でもありますね。歩きながら紅葉を眺めると、心が落ち着き、日々の疲れが癒やされます。また「松茸ご飯」や「栗ごはん」、秋の味覚は、香りも味も格別で、自然の恵みを感じることができます。さて、10月からは日臨技支部学会が順次開催されます。会員の交流の場でもあります。皆さん奮って参加しましょう。

（南部）